

平成21年2月6日

**緊急アンケート集計結果について**

全国厚板シェアリング工業組合  
東京支部長 酒匂雅信

1. 調査時点：平成21年2月3日（火）匿名方式
2. 回答社数：東京支部64社中、41社
3. 質問項目

Q1 昨年11月から1月にかけて、貴社の受注量（加工量）は、直前の期（8～10月）に比べ、どの位減少していますか。

減少		変わらない	増加
33社		5社	3社
15%	40%		+4%
20%	50%		+5%
25%	60%		
30%	70%		1
34%	90%		
35%	10%		

Q2 在庫水準はいかがですか。

過剰	適正	過少
26社	14社	1社

Q3 資金繰り事情はいかがですか。

厳しい	やや厳しい	特に問題なし	先行きに不安
2社	7社	23社	9社

Q4 資金繰り策として、政府の信用保証制度（セーフティネット）を申請しましたか。

申請した	申請する予定	申請の予定なし
5社	6社	30社

Q5 工場の稼働率はどのくらいですか。

30%以下	30 - 50%	50 - 70%	70 - 90%	90 - 100%	100%以上
1社	7社	13社	13社	4社	3社

**Q 6 稼働率が低下する中、どのような対応策をお考えですか。**

- A 1 設備の廃棄
- A 2 雇用調整助成金の申請
- A 3 残業0%の実施
- A 4 トラックの隔日使用
- A 5 歩留まり向上（残材の活用）、効率より歩留まり優先
- A 6 在庫減らし
- A 7 出勤日の変更と人員削減
- A 8 この足元は慌てないこと
- A 9 あらゆる分野のコスト削減
- A 10 スキルアップ指導と資格取得
- A 11 顧客満足度の向上
- A 12 リストラ
- A 13 無駄な経費の削減と仕入れの抑制
- A 14 安全の徹底を中心とした社員教育、意識向上
- A 15 経費削減、ワークシェアリング、在庫調整
- A 16 研修生の削減
- A 17 前向きに注文をとる
- A 18 過当競争に参戦しない
- A 19 人の異動
- A 20 安売りはしない。今ある仕事を大切にコツコツと
- A 21 人的削減と操業時間短縮
- A 22 物件対応であり、4月以降の物件受注に向けて鋭意ワーク中
- A 23 外部研修等、スキルアップに利用
- A 24 マーケティングのし直し等
- A 25 操業短縮、休暇取得、営業強化
- A 26 一部人員整理と臨時休業
- A 27 残業中止、強制的有休取得
- A 28 営業のローラー作戦で小ロット受注増を目指す
- A 29 休業等
- A 30 当社特色の多品種少量短納期への対応を堅持

**Q 7 中小企業向けの雇用調整助成金制度をご存知ですか。**

知っている	知らない
37社	4社

## Q 8 この助成金制度を申請する予定はありますか。

申請予定なし	申請予定	申請済み
22社	18社	1社
理由：1 知らないから		
2 そこまで困っていない		
3 資金に問題なし		
4 現状必要なし		
5 中小企業の定義から外れるのではないか		
6 定時操業維持はできそう		

## Q 9 これから先、一番厳しい時期はいつ頃と思われますか。また、何が回復のカギを握っていると思いますか。

一番厳しい時期	景気回復のカギ
1. 見当もつかない	1. 公共投資による需要喚起
2. H21年度下期以降	2. 政府の対策
3. 1～5月の間	3. 効果的な財政出動
4. 5月頃	4. オバマ政権の経済対策（効果は3年先）
5. 現在からH21年夏ころまで	5. 見当がつかない
6. 8月頃	6. 欧米経済の回復.
7. 2～3月、さらに4～8月	7. 在庫一掃がカギ
8. 6月頃まで厳しい	8. アメリカ経済の回復
9. 2～5月	9. 政治の信頼回復
10. 7～9月頃	10. 法人税減税等による内需拡大策
11. 5月以降	11. 各国の早目の財政出動
12. H21～22年	12. 金融の正常化（融資条件の緩和）
13. 3月	13. 米国と新興国の回復
14. 7月以降	14. 09年度予算の早期成立（橋梁）
15. 3月～6月	15. 自動車生産量の下げ止まり
16. 6月～7月	16. 内需の回復
17. 4月以降	
18. 2～3月	
19. 4～6月	
20. 夏～秋	
21. 4～5月頃	

